

---

# **キャラ崩壊！！物語 1 ~こくこく染まる黒~**

桜井はる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キャラ崩壊！！物語1～10へ染まる黒～

### 【Zコード】

Z0214BA

### 【作者名】

桜井はる

### 【あらすじ】

これはキャラ崩壊します！！

うん。絶対絶対

しかも非現実的で、魔法とかでてくるかも・・・・

それと、これは原作の事件の内容とか、トリックどんづつかいます

それがやならよまないでください！

あと苦情、うけつけません。  
てか無視します。

それでもいいならよんでもみてくださいな。

それがいはバツクばつく！！

コナンくんの性格とかかわってるし。

灰原さんも！！

本当もうひとたばたです！！

でわ～

## ファイル1～物語の設定

### まず内容設定

#### 登場人物

江戸川コナン（工藤新一）

どうして偽名つかってるかは知ってるよね？そこはせびりますこの物語の主人公。

町一番の美少年とのうわさだが本人はそんなこときいていない。またキッドキラー、少年探偵団の頭脳、星として有名だが控えめな発言などでさらに人気がでていることは本人はぜんぜん知らない。最近、組織の人間の気配がわかるようになった。

最近は危険なことがおおすぎて普通の生活といつよりもいつ組織に招待がばれるかはらはらビビの生活をおくっている。

#### 毛利蘭

かなりの美人だが、新一が居るため「男子もねらってこない。コナンのことを影でささえるお姉さん。

コナンの正体にはさすいていない。

新一のかえりをこころまちにしている。

#### 灰原哀（富野志保）

コナンとおなじでおおまかに設定はみんなしているよね？

最近、平和ボケになつてきたりしく組織の第五感がはたらなくなり、組織の気配がわからなくなつた。

コナンのよつなあかるくも、言葉にとげがあるような性格になり、組織にはあまりおびえなくなつた。

推理力もコナンといったおかげでコナンほどではないがどんどんあがつた。

子供達ともなかよくなり、歩美のことたまに歩美ちゃんとよぶようになつた。

組織へのおびえ方はコナンと真逆になつた感じ。

吉田歩美

コナンと灰原の正体にきづき、光彦、げんたとともに一人をとひつめ、見事二人の正体をしり、協力してくれるようになつた。哀とは本当になかよくなり、信頼しあえる存在。

コナンのことがすきだが、その思いは胸にしまつてある。

円谷光彦

歩美とともにコナンと哀の正体をしる。  
それからは一人に協力している。

哀に好意をもつていて、組織のことが終わつたら哀に告白しようと  
している。

コナンにもきをゆるしていておたがいに信頼しあつてゐる。

小島げんた

歩美、光彦とともに、コナン、哀の正体をしる。  
それからは一人に協力している。

コナンのことを親友としてみとめていて、歩美のことがすき。  
警察関係者はマンガをよんでもね

服部平次

くわしくはマンガで

かずはがていたんに母親の事情で天候することになつたため、ついてきた。

いまはあがさ邸に居候中。

コナンのことをささえている。

遠山かずは

平次とともにあがさ邸に居候中。

コナンの正体にきづいていない。

灰原アミ（クリスヴィンヤード）

組織を裏切り、あがさ邸まできて、そこでAPT-Xをのみ幼児化し、  
哀の双子の妹としてていたんにかよつてゐる。また、あがさ邸に居  
候中。組織はクリスが秘密主義者のため、大丈夫だと思い、クリス  
をおつてこないため、クリスは哀とコナンの協力をしている。

コナンのことを江戸川君、哀のことを哀とよんでいる。

大野夢（浦野コリ）

FBIで下っ端としてはたらいていたが、クリスがもつてきたAPP TXをまちがえてのんでしまい、コナンたちの正体をしった。組織の存在さえしらなかつたため、組織に狙われる可能性がないことをおおいによろこんでいた。

あがた邸に居候していて、ていたんにかよいながらコナンと哀の協力をしている。

鈴木園子

「コナンたちの正体をしらば、最近はキッドの事情をしり、キッドの助手の、怪盗レディーレディーをしていく。

黒羽快と

くわしくはマンガを

二代目快等キッド。

その子を信頼していて一緒に仕事をしてくる。

青子がすき。

毛利小五郎

くわしくはマンガへ！

コナンたちの正体をしらない。

えりとよりをもどし、コナン、蘭、小五郎、えりの4人暮らし中。

妃えり

小五郎とおなじ。

てな感じ？

途中でまだまだでてくるよ

これは現実できじやなくて非現実的つす！  
魔法とかでできちゃうかも・・・・・

## ファイル2～黒の組織との再会、コナン編～

学校の休み時間・・・・

夢

「ねえねえ知ってる?」こんどの「GAMERA」の撮影でしんじやつた人をしのぶ会」

歩美

「もつちろん!..しつてるよ~外国の有名な俳優さんとか、スポーツ選手とか、いろんな有名人がくるんだよね」

夢

「そうそう。それでね、子供だからこいつとしのび」めるしつてみないつて平次おにいさんが。おにいさんだけ正体されてるの。今日の夜!」

光彦

「そうですね。ぼくらも一応有名人ですもんね。」

げんた

「だよな。いつてみよつかしり?」

アミ

「まあ。いつてみよつかしり?」

哀「そうね。てか江戸川君は?」

「みつひ!」「ああ。ちよつと風っぽいみたいで保健室でねてますよ~。」

哀「へえ。まあ江戸川君だつたらつこわやつね。」

歩美

「うん。うん。まあ今回はいいんじゃない?」

哀

「じょうがないわね。」

そのじる「ナンは・・・・・

「ナンは夢のなかにいた。

みんなで」学校の帰りに雪がふる道をあるこてこる。

げんた

「おい観たかよ昨日の試合ー。」

「ナン」「ああ・・・ヒートのオーバーヘッジだら?」

光彦「芸術的でしたよねーーー!」

『戯言は終わりだ・・・まあ夢かひたむけ・・・お前の好きな緋色で、再会をいわおひじやないか・・・』

「ナンたちはポルシHのよこを」とおつかせや。

『なあ・・・工藤新一・・・』

「ナンはどじおきた。」

「ナン

「ハア、ハア、いやな夢だぜ・・・」

「ナンは頭をかいだ。

保健室の先生はいなこよつなので保健室をぬけだす。

教室につくともいつ事業がはじまつていた。

小林

「あら、もう大丈夫なの」

「ナン」「はい。すいませんでした・・・」

息はたしかにきれでいてひどく冷や汗をながしていた。

「ナンは悲しい険しい表情で席にすわった。

哀

「夜、子供たちと服部君といつしょにしおぶ会にいって。ハイドン  
ティホテルの。あなたもいきでしょ?」

「ナン

「ん、あ、ああ・・・」

そのすぐあとに授業がおわった。

歩美「わ～みて、雪がふつてゐるよ～」

「すつげー」

歩美「ほら、コナンくんも・・・」

歩美がコナンの手をつかんだ。

コナンはつよく手を振り解く。

コナン

「俺にさわんな!!」

歩美

「」

光彦

「コナン君・・・?」

アリ「・・・」

夢

「・・・」

哀

「・・・」

コナン

「もうつるぎやりだよ・・・。こんなところ・・・。すぐこでむーー  
かうきえちまいといいくらこに。まあそのうちやつなるだらうけど・・・  
・」

歩美

「え～「ナン君天候しきやうの～」

光彦

「ひょっとしてこじめですか！？」

げんた

「そんなのねがやつけてやんよ……」

歩美「あ……もしかし、組織の」と……？」

「ナン」「へ？あ、わり。風邪氣味だつたからつしたくないだけだよ。」

歩美

「よかつたあ。さあかえろ？あがせ邸までみんなでいってそのまましのぶ会こくんだから」

「ナン

「ああ。わうだな。」

「アハ、あー、夢」「……」

全員で帰りみちをあるこていいた。

歩美「ゆーわや」こいんあ「りや」こいん

「ナン」「……」

哀「こいんは自分の居るぐれ場所じやない……こいんの子達をまわる

えにしないためにも早くここから消えなければ……」

「ナン」「へ?」

哀「なーんてくだらないことかんがえているんでしょ?」

夢「大丈夫だよ。薬で体がちじんだんなんて夢物語、誰もおもいついたりしないよ~ね、あみ?」

アミ

「そうね。ばれないためにもこのまま子供をえんじつづけなきゃいけないのよ···」

哀

「そのときがくるまではね···」

光彦  
「心配しないでください···」

げんた

「やばくなつたらよ、」

歩美

「歩美たちが一人をまもつてあげるもん」「

「ナン

「(おめえら···なにもわかつてねえんだな···俺らだけでなんとかできるあいこじやねえことは今までの経験でわかつてんだろ?もしかしたらあの夢のようこのもこの町のどこかで俺たちを···

「ナンせびりくつした顔で」セビリとまつてこのポルシH 356 A  
をみた。

「ナン」「おこ、それ……」

歩美

「ほ、ポルシH……」

哀

「ヒーヒーヒーンの……」

哀は博士に電話しだした。

哀「すぐきじ、セツ、あれをもつて!—みんなでのれるレンタカー  
かりてきなせ!—!—」

哀と平次ははかせがもつてきたハンガーと針金で車のドアをあけて  
中に入つてこんだ。

「ナン

「ちよ、おこ!—!—」

哀は盗聴器と発信機をしかけた。

「ナンもあわてて車の中にはいついみとおつの回りのみとあせん  
とした。

「ナン

「ジン、ウォッカ・・・」

とおりのむじうにはその一人がいた。

「ナンはあわてて平次と哀をむけりやりひつぱつてほかのこじもたちとともににはかせのセレンタカーにのりこんだ。

哀

「よし、発信機と盗聴器をしきけたわよ。」

平次

「とつあえず！」で盗聴器から聞こえてくる音をきこいつやないか・・・」

コナン

「危険だ！やめろって」

哀

「つぬさ」わね、だまつてなさい！――」

歩美「あ、きこえてきた・・・」

ジン「ああ、おれだ。どうだ？そつちの様子は・・・？なに？まだこない？安心しる。ターゲットは18時ちょうどにハイド氏8ティホテルに顔をだす。てめえの別れの快になるともしらすにな。とにかくやつのがうりにまわるまえに口をふさげとのめえいれいだ。ぬかるなよ？スコッチ。何なら例の栗をつかつてもかまわないぜ？」

げんた

「す、スコッチ？」

ジン「（ん？特徴があつてやつてやつての短めの黒髪・・・）」

ウォッカ

「な、なんですかそれ？」

ジン

「発信機と盗聴器だ。」

アミ

「ばれた！？」

ジンは盗聴器をつぶした。

ジン

「（まさか本当にこゝきてたとはなあ・・・歓迎するぜ？）藤新一・・・」

コナン

「どうすんだ？状況はかなりわりいぜ？」

哀

「大丈夫。社内に私たちの痕跡はけしたから。」

コナン

「これからどうすんだよ？」

平次

「パーティーに全員でのつじむるや。ターゲットはおやじく横領の

疑いがある近藤正孝ぢや・

コナン「俺は『めんどだぜ?』

哀

「ええ。最初からそのつもじよ。あなたは博士と車の中であつてな  
れい。」

アミ

「そうね・

歩美

「例の薬ぐらいはもつてきてあげるから。」

ジン「ああそりだ! 藤新一だ・・・殺し底値たあのがきがそつちに  
むかつてこるはずだ。面がわからんねえんなら組織の被験者リストを  
しらべろ・

ああ。まちがいなくあの男はくるぞ。あこつはそりやつだから  
な。

とにかく書きをみつけしだいとつまえて面をおがませる。ああ、  
問題ない。たとえ首から下がなくともな・・・・・

パーティー会場に博士以外のみんなはいた。

哀

「ついてこないんじゃなかつたのかしら？」

コナン

「なんとなく。いやな感じがすっからきた。」

アミ

「あら、いたわよ？ターゲットさん。」

光彦

「ですね。」

アミ「いい？特に江戸川君、私達からはなれるんじゃないわよ？」

平次

「せやせや。てかしのぶ念だけあつてみんなあやしく、いえてくんの～」

『工藤新一・・・・』

『工藤新一・・・・・・』

『工藤新一・・・・・・・・・・』

がしつ

「君、迷子？」

「ナン」「え、あ、あ・・・・・」

哀「うん…」

夢

「ごまおとーさんかしてると」

歩美「こいへ光君」

歩美たちは「ナン」をつれてきた。

歩美

「どうしたの?」

夢

「ナン君うしくないよ?」

平次

「せや。」

「ナン

「みたんだよ・・・」

一同「へ?」

「ナン

「いやな夢・・・ト校途中にジンたちにみつかって路地裏においこまれて一人一人、ジンに銃殺されていつて・・・・・」

哀がそんな「ナン」に自分の帽子をかぶせた。

哀  
「大丈夫よ。」

げんた  
「そうだぞ」

光彦  
「それをかぶつていればだいじょうぶです」

歩美

「うんうん」

コナン

「・・・・・ そうだといんだけどな・・・・」

ぱあ～ん!!

「ナン」はややしき笑つた瞬間スライドのせいで電氣がぱつときえた。

哀  
「銃声」

「じんがらがつしゃん!!」

シャンテリアがおちてきた。

ハンカチがいちまいふつてきて哀画キャッチした。

でんきがつくとおちたシャンデリアとそれにつぶされて死んでいる近藤正孝がいた。

悲鳴がいつきにいつきにえでくる。

軽侮たちがやつてきてドアをしめた。

そとにはもう貴社がいつぱいだそうだ。

めぐれ

「怪しい人を見た人はいませんか？」

警部がさけぶがみんなまつていた。

孝は普通にライスをたべていたが途中でペッヒシャンデリアの破片を由佳にはきだした。

孝「なんだこれ？」

哀はそれをさつとハンカチにくるんでとつた。

平次

「シャンデリアをおとすなんて仕掛けでもないかぎりむりや。 いつたいどーやつて。」

みんながかんがえふけつているとコナンが哀の手をつかんであつきました。

哀

「ちゅうとうーー。」

「ナン

「これ以上ここに腰座る必要はねえだろ。こいつおれたちだつて落ちてきたハンカチだけじゃ。」

平次

「二つないひつやへ

「ナン

「え?」

歩美

「住山ひぬじさんのがじ飯からシャンクトコアのはぐんをおとしたんだよ?」

平次

「それにハンカチもここで配られる限定もの。色があつてさつきしらべたらあのハンカチとおなじのをもらつたひとは一人だけや。」

アミ

「つまり容疑者はそれだけ。」

哀「ねえ刑事さん。トイレこつていい?」

刑事

「いいよ。じつめ。」

ドアを開けた瞬間すゞい勢いで記者たちがはいつてきた。

みんなフラッシュを書いていて100人はいる。

一同は唖然とした。

スコッチ「・・・」

スコッチはパソコンをあけた。

かたかた

KUDOUSHINNITI

ぴゅうん

スコッチ「・・・」

しばらくすると客もかえろうとしてようとして大混雑になつてしまいそれに一同ものみこまれ200人をこえるひとがぎゅうぎゅうズ目になつてはいろいろとしたりかえりつとした。

平次「お、おい大丈夫があー！」

哀

「あれ、工藤君はー？」

三

「いなくなつてるわよーーー！」

三

「うそ、こなんくん……？」

げんた「こなーん！？」

光彦「コナン君！！！」

哀

「……………」藤君……返事して……」

平次

卷之三

「ナン「あ、ううう・・・」

コナンはだきかかえられた。

ア  
ミ

「だれかにかかえられてるよー?」

哀

「もう、とおすぎるし人があおすぎる！！」

コナンは口にハンカチを」あてられた。

が  
ば  
つ

「ナン」「ハハ……」

歩美「口にハンカチあてられてるよー?」

「ナン」「……」

がくつ

「ナンはそのまゝをひこなつた

『「ナン君……』

『ねあてぐだれこ……』

光彦

「「ナン君……」

「ナン

「え?」

光彦

「どうしたんですか? 今授業中ですか? やっぱりすんだってほうが……」

「ナン」(静)「ふつ……」(うだよな) 下校途中にジンの車をみつけるなんてでかあれてるよな……風邪のせいでひつかしまつたのか? 僕……」

『「ナンくそ……』

「ナン」「え?」

『工藤、おい工藤！！』

コナン「なんなんだ？」

『ヒカル』

二  
ナ  
ン  
・  
な  
h  
な  
n  
た  
よ  
・  
・  
・  
!

工藤君！！

セーティングが目を離さない。

二ナンには灰原だとこだわる

哀しかった。いまめがねのやうで会話を始めた。他のみんなもいるわ。」

コナン

たはたあ・たんたん

三

「それほどのやつぶよ・・・あなたはこよどりにいるの? 迷子?」

二  
ナ  
ン

「んなわけねえだろ。なにがなんだか・・・・・」

歩美「歩美たちは博士の車のなかだよ。」

コナン

「あ、たしかおめえらとほぐれてそしたら後ろから男に・・・」

夢

「に、なに?」

コナン

「だきかかえられてクロロホルムかなにかをしみこませたハンカチで口をふさがれてそのまま「気絶しちまつたんだ。」

哀「その男、いまいないんでしょうね?」

コナン

「ああ。どつかの倉庫を酒蔵にしたみてえな感じで監禁されてるよ。ドアの鍵はしつかりしまつてけどな。指紋認識装置まであるぜ。」

平次

「今時期円のことをはなして7人の容疑者待機させてんや。犯人その中の誰かでまちがいないんやけどまだわかつてへんのや。まあその中にスコッチとやらもいるやうからあんしんしど。」

げんた「でもよ。やつぱりあこつだつたんだ。」

コナン「あこつ?」

夢

「つなぎきておつきなダンボールを台車で運ぶへんなやつがいたの。でね、おいかけたんだけど指紋認識のとかぎかけて私達を無理やり

おひざりつたのよ。」「

コナン

「ふうん。あ、パソコンに俺のM〇がつながってる。」

哀

「M〇?」

コナン

「ああ。蘭からもうりつた遠足の写真のやつ。俺の服にはいつてたから多分しらべたらあんだな。携帯もつながってるってことね。・・・」

かたかた

コナン

「やつぱり。俺の顔を検索してる。」

歩美

「あれ? コナン君縛られてないの?」

コナン

「ああ。すぐもどつてくる予定だったんだな。まあ服部のせいで止められてつねだ。」

哀

「どうからかにやられないので?」

コナン

「暖炉がひとつあつけど広すぎて無理だな。元の体ならなんとかなるかもしれないえけど。」

哀

「ロープかなんかないの？」

「ナン

「あ？ でもそんなのがあんなら俺をしばるのにスコッチがつかつてるとおもひせ？」

「ナン」「いいか？ よくきけ。」

平次「へ？」

「ナン

「こまパソコンで組織の構成員だけど住所とかだしたんだ。」コレくらいうおぼえられんだろ？ まずは鹿児島県、

- 5 -

3 黒井竜や。

「

哀

「ちよつと、暗記できるんならあとであなたをたすけてからきいてあげるから

「…」

「ナン

「次。」

哀

「やめなさい…。」

「ナン」「つむせ…。黙つてきけよ…。もつお前、りと言葉をかわす」とはねえだらうからな。」

平次

『アーティスティック・アート』

コナン

「わからねえか？やつらは俺が幼児化しているにもかかわらず監禁したんだぜ？てことはもうばれてんだ。俺がこのままにげまわってたらどちらにしろまわりのやつらが殺される。それに俺はもうパイ刈るでもどれねえし灰原のときよりもはるかに状況はわるい。な？」  
「じゃあつづけるわ。」

哀

「…とおりあえずハイカルとできるだけアルコール濃度が高いお酒のみなさい。もしかしたら…」

「ナン  
「わあつたよ・・・  
「

歩美「あ、おつかれ。」

平次

「事件当時の容疑者の位置はわかつたんやけどな」・・・

コナン

「なあ、思いつく言葉つてあつか？」

平次

「なんやそれ？」

「ナン

「APT-Xのデータをミロサムヒトリシトシとだけビースワードにひっかかるちまって。」

哀

「うへん・・・」

アミ

「多分それぴ巣子のときとおなじたいふだからおなじパスワードで  
いことおもうわ。」

コナン

「あ、ひらこた。」のまのかくしとくから俺がつねにいるねとあとで  
とつこつこよ。」

哀

「それよつお酒のんだの？」

「ナン

「ああ。どうにうつもりだがしらねえが余計氣分がわるくなつたぜ。  
・

博士

「お、おこみんなーー！」

一回「え？」

車のまえに人たちの車がやつてきて二人がでてきた。

哀

「多分パソコンの中に発信機がしがけられてたのよー！」

歩美

おふない  
二二二  
春  
悪い  
今がちがく  
る  
れ

コナン  
「ハア、ハア・・・」

平欠

「おこどーしたぐどー、返事せんや、おこどー。」

どくへん！

「警部、服部や、いますぐ黒服の男たちにしゃくしつせい！！」

刑事「いないよ？ そんな人・・・」

どくくん

どくくん

ぱしき、ぱしき

バン！！

ウォツカ「妙でつせ、だれもいやせん。」

ジン「帽子がおちて……」

ウォツカ「とにかくすらがりましょ。」

ジン「ああ、そうだな……」

哀「ねえ? もうやつはこいつたの?」

コナン「あ、ああ・まさかまたもとこもどるとはな……」

哀「あなたふくは?」

コナン

「倉庫にあつたつなぎをきてるよ……もちろん薬の「トータを」  
ペーしたのももつてるよ……」

哀

「安心しないで・その効果は一時的。子供になる前に煙突からでて。  
」

「

新一

「へいへい。で、わかつたのか? 誰がスコツチか。」

アミ

「残念ながらまだ……今大阪の探偵君がみにいつたわよ。事件現  
場。」

光彦「大丈夫ですか？」

新一

「ぎりぎり……な。」

哀「あ、わかつたわ！スコッチの正体！？」

新一「で、でたぜ？ でこれからどうすればいいんだ？」

博士「そこにまつてこるといつておったが、」

新一「博士？ みんなは？」

博士「安心せい、いまそつちにむかつとる。」

新一「わかつた……」

パシュウ

ジン「あいたかつたぜ？」—藤新一。

新一「ハアハア」

ジン「きれいじゃねえか。闇一枚散る白い雪。それをそめる真っ赤な先決……」

新一「よ、よくわかつたな……俺がここからでてくるつて……」

ジン「だんろのそばに帽子がおちてたからなあ。」

新一「へ、へえ。まあ感謝しなくちゃいけねえな。こんなさみいなかまつてくれたんだし。」

ジン「口が動くつかないのか。お前が毒薬をのんでしななかつたわくだけを。」

歩美「もひくべだよーーー。」

哀「？・・・もしもしー。」

哀「ええー？ 木藤君がうたれた？」

はかせ「あひじゅ、ビリかの屋上で。もひへ、ミゼツヒタれてるぞおーーー。」

哀「うそーーーうわねーーー。」

アリ「セツヒトニルがなくひゅせばこわよーーー。」

ぱあんーーー。

ウオッカ「はああせんせーーーのがわ。」

ジン「ふつ。しょ「がねえ。いかせてやるか・・・。」

ジン「（針…？）」

ウォッカ「あ、兄貴…」

アミ「煙突よ…早く煙突に…」

ウォッカ「誰だてめえは…」

新一は煙突にはいった。

新一「ハアハア…ウアアアアアア…」

スコッチ「すばらしい…」

コナン「（誰だ…？）」

スコッチ「君はまだ赤ん坊だったからおぼえてないだろ？がね、女優だつたきみの母と私はとつてもしたしきてね、よくいつしょに共演したもんだ…・だがこれは命令なんだ…・・・」

コナン「（誰なんだよお前…）」

スコッチ「悪く思わんでくれよ？新一くん…・・・」

哀「そこまでよ…バングさん…・・・それとも、スコッチってよんだほうがいいのかしら？」

スコッチ「だ、だれだ！？」

哀がスコッチの前にすがたをあらわしいきなりはしりだした。

スコッチもそれをおつてはしりだす。

その隙にげんた、歩美、光彦、アミ、夢がはいつてきてコナンにかけよつた。

コナンはまだ意識が朦朧としていた。

歩美「大丈夫？」コナン君」

光彦「もう大丈夫ですよ。」

アミ「ひどいわね。かるく5・6ぱほつはつたれてるわね。」

夢「い、いたそつ・・・」

そういうとげんたがぶかぶかのつなぎをきてめがねも帽子もしない状態でだきあげて恵那かにまわしあんぶをした。腕は打蘭としていてコナンのさらさらのかみがげんたにあたつた。

コナンはもうすでに気絶しかけているようで荒い呼吸をしていた。

哀はスコッチに対し推理をはなしている。

スコッチがスピーカーにむかってはつぱうするとなかなかかなりアルコール濃度のたかいさけがでてきてすつていたタバコが引火してもえだした。

そしてスコッチがあたふたしているうちに全員ぬけだした。

それからフロアにいくと平次と高木刑事がいた。

高木「おわつ……どうしたんだい? ノナン君……」

平次「無事やつたんやな……よかつた」

哀

「よくないわよ。どれも急所ではないものの江戸川君もひり発はつたれているんだから……コレがち丈夫にみえる?」

アリ「とりあえずかえりましょ。ここは危険だわ……」

平次「せやな。ここか。」

そして車のなか……

平次「なんやとおー? スコッチが射殺されたー?」

博士「ああ。新一がおとしていつためがねできいていたんじゃが。」

哀「にしても髪だけでだれかわかる? 普通」

アリ「そうね。江戸川君のかみは男の子にしてはめずらしこそめびれらさりしてて細いけど、髪だけじゃ、ねえ……」

光彦「そうですね……」

「 げんた「でも」ええよな～監禁されて銃でうたれたなんて。」

「 ナンは一番後ろのせきで手をあかくそめて皿をうつすりあけながら荒い呼吸をしていた。

哀

「 どういわゆる紀なの? 江川君。これから……」

「 ナン「安心しゆよ……畠山君でもひつひつやつから……」

博士「おこおい、無理じゃよそんな体じやあ……」

哀「大丈夫。私のとおと回じよつにさがれなことおもうから。江川君。いまからびょくんいくわね。」

「 ナン「こ、よ。弾は貫通してるし、包帯まけば大丈夫だつて……」

哀「でも……」

アリ「ストップ。しょうがないじゃないの。あんあこどがあつたのよ? あなたとおなじよつにわすがの江川君でもこわがつてもしうがないでしょ? 」

哀「……それもそうね……かえつたら包帯まつて麻酔銃でねかしこけばいいわね。朝まで心配だからみはつてていたらかれ、ねないだろうから。」

アリ「そうね……」

歩美「今日は歩美たちもとまつてよ。」

平次「そか。蘭ちゃんはまだいるんや?」

哀「そうね・・・とまつてくて博士、電話してくれる?」

博士「わかった。でも新一、その怪我じゃしばらくあるけないんじやないかの。」

夢「平氣です。あとで私達が松葉づえ病院からかりてきますから。」

博士「そつかの?あ、ついたぞ。わしはレンタカーかえしてくるから新一君をねかししてくれるんかの。」

平次

「ああ。それならまかせろや。」

そうこうと平次はコナンをおんぶして車からだた。

子供達もそれにつけ。

金圓おつると博士は車をかえしにいった。

家にはいると哀の案内でリビングにある大きなベッドにコナンをねかせると平次がきがえ哀画治療をはじめた。

哀「まつたく。ひどいわね・・・。1週間はあるかなこわよ?」

歩美「うわあ・・・学校はびりあるの?」

哀「いけつていつたでいかないでしょ。ね？」

歩美「た、確かに。」

平次が着替えをもつてきてコナンはそれにつきおがえると布団にはいつたが目はしつかりあいていた。

それをみかねた哀がコナンに麻酔張りをつかむと、コナンはしずかにねいつていた。

## ファイル2～黒の組織との再会、コナン編～（後書き）

### 登場人物

- 住山孝（38）カメラマン  
マイケル・布拉ッグ（29）俳優  
斎藤五木（33）作家  
バング・ローダリー（63）俳優  
朝日洋子（33）作家  
武井広永（55）カメラマン  
沢口千夏（22）モデル  
コナン君の服装  
パークーのついたジャケットに、水色のセーターとながずぼん。  
哀ちゃん  
上にセーターでしたに赤色のスカート。  
アミちゃん  
氷河らのつけえりにピンク色のニットのももんが。  
短めのデニムのすかーとニクローのタイツにブーツ。  
夢ちゃん  
ジャケットに青のセーターに半ズボン  
歩美ちゃん  
ピンクのニットのワンピースのなかに、ハイネックの白のTシャツ。  
ブーツ  
光彦君  
セーターに長ズボンにマフラー  
げんたくん  
袖なしじゃけっとセーターに半ズボン。

## 「ファイル3～田覚め。&キャラ雑談～

次の朝、おもむろに「ナン」はもつねきて壁一帯と外をみていた。

そんな「ナン」に哀がはなしかけた。

哀

「どうしたの？浮かない顔して。」

「ナン

「ん、あ、あはははらか・・・なんか、昨日、スコッチよりも  
もつとひどくつよくてさつ もにみちたよつた組織のやつらの感じが  
したんだよな・・・・」

哀「え？」

「ナン」「だへかーらーいたんだよあのホテルの中にスコッチよりも  
もつと強くて恐ろしい感じをまとつた組織のやつが。」

哀「うわ・・・・ヒ」とはスコッチがだれだかつかうわかつてた  
わけ？」

「ナン」「やあ」ヒ。

哀「なんでやれをいわなかつたのよーー。」

「ナン

「いや。監禁されるまえはもう一人のやつは夢中で監禁されてから  
はちよつと離のせいで頭あわらなくてさ。」

哀

「はあ・・・・・じゃあもしかしたらあなたの正体をしつたやつがまだいるかもしないわけ！？」

コナン

「まあそういうことになるな。」

哀

「そういうえば、バングさんとあなたあつたことあつたみたいね。」

コナン

「へ？ そんな」といつてたか？ わり、俺さ、だれかに拳銃むけられてたことと弦たたちがきたことしかおぼえてねえんだ。だれがなにいつてたかはもつとつぱり。」

哀

「まああれだけされといてそんだけのんきなら大丈夫ね。」

コナン「のんきっておー・・・・

哀

「でもあなた当分事務所にかえれないんじゃない？ そんな姿じゃ。」

コナン

「だな・・・・・まあえりさんもかえつてきただし家族団らんしてんじやねえか？」

哀

「でもあなたには未来の息子じゃないの？」

コナン

哀

卷之三

二  
ナ  
ン

（まことに鬼たる……）

哀

「なにもこゝにいません」

哀

「いいのやそれで。子供達もきずかれたみたいで今田はやすむそ  
うよ。ベッドからおりないで子供達の相手をしなさい。」

コナン

「わあったよ。それにしてもさ、昨日お前がきたあとなにがあったかせつめいしてくんねえか?」

哀

「なんならみんなの服に小型カメラしかけといったからみる？ もちろん、あなたがさらわれるときのもあるわよ？」

コナン

「へ？ じゃあ俺がさらわれたのおめえらみてたのかよー！？」

哀

「ええ、もううん。あの時のあなた、本当の子供みたいな顔してたわよ?」

コナン

「うう・・・・・・

哀

「ふふふ・・・・

歩美

「ふあああああ。おはよっ、みんな。」

げんた

「腹へったあ。」

光彦

「第一声ですか・・・・」

アミ

「あら、おきてたのね・・

夢

「ねつむ~い」

平次「ふあああああ。」

かずは

「あ、みんなやん。って、コナン彌笛したんその怪我。まさかき

の「みんなおそかつた」ととか「あぬごじゅ・・・・・」

アリ

「ちよつと沸けあつた。わけをあわたこなら2000万、アリリ

おこでこきなれこ。」

かずは

「（）のナリにわれるといひもこえへんがうしなむよな・・・・・・  
なんでやひ・・・・・」

アリ

「ふうん。なにもこわなこつて」とせきかないのね。や、監闇を無  
駄にせたぶん朝食をつくつてせなれこ。」

かずは

「は、せ～こ・・・・・」

でわでわ～

キャラ雑談

せぬ（れくつや）

「せぬせぬ～みんなで昨日のピートオをみましゅ～すたーとーー。」

げんた

「お。これ俺達が来たときのパンだぜ。なんかいつもよつ性格よ  
れぬにみえんな～」

パン

「じゃあ普段はどつなんだよ」

哀

「そうね、一言でいって、」

一同

「田立ちたがり屋、かつこつけ、確かに顔はかなりかつこいいし運動できるし勉強できるしだけど、一つ一つのせりふがクサイ。」

口ナン

「そこまでこづか？普通。」

一同

「あれ、ちがつた？」

口ナン

「・・・・・あ、こいつ辺から記憶がねえんだ。」

歩美

「口ナン君をげんたくんがかえたといふからだねー。」

口ナン

「ふうふ。こんなことこつてたんだ。おめえら。」

アミ

「あなたは紀をうしれないかけてたからね。おぼえてなくともむりないわ。」

口ナン

「てか俺かつこわり・・・」

哀

「え。

光彦

「いつもよじか素直そうでかわいげがありましたよね？」

一同

「うんーーー！」

コナン

「・・・・・」

はる

「ではではーーーまでもーまたのーーー来場をーーー！」

## ファイル4～猫探しの「ナンたか～

ある車の中

ウォッカ「え？あの男、この町でわがたないんですか？」「

ジン「ああ・・・無駄なことはしねえ性分なんだ・・・今頃、助けに来た女と、どこか遠くのまちにしけこんでるとこねだらーよ・・・俺達に顔をみられた街にのんきにとどなるような男じゃねえからな。」

マイケル「あれ？ずいぶん入れ込んでるんだね・・・その男に・・・」

ジン「悪かったな・・・シードル・・・あの金髪爺いをサポートするためにお前ほどの男をわざわざよんだってこいつのに・・・とんだくまにつけあわせかけまつたな・・・」

シードル

「本当。せつかく事情聴取のまえにハンカチをわたしてやつたのによ・・・死んで正解だったな・・・それよりきにならね？それがおとつるんでのる女・・・」

ジン

「ああ。あの男につるんでいる女・・・みてみたいもんだ・・・そのつりを・・・」

シードル

「恐怖にゆがんだ、死に顔をな？」

ウォッカ

「また米国にもどるんですかい？」

シーデル

「ハノハノ。しばらく俳優は休業・・・」いつまで遊びにするつもりで、いつまでも引きかかる」ともあるしな・・・」

一週間後

「ナン

「猫さがしいー!？」

歩美

「そうよ!...依頼なの!...「ナン君もあるたるよくなつたしさ!...それに報酬がヤイバーの映画の試写会のチケットなの!...」

哀

「いいんじゃない?リハビリだと思えば・・・私はバスだけじ・・・やうじがあるから・・・」

アミ

「私はどうしようかしら?」

夢

「あたしはもうひとつ今日ジヨーティとお茶のやくもくが・・・」

光彦

「じゃあ僕ヒトノセ、『ナン痴と恭業のやんとばんたくん』でいいですね。」

かずは

「きこつむや～」

平次

「こつむや～」

アミ

「まあ暇つぶしへこびむせなるわね・・・・・・」

『ナン

「・・・・・が、いつか・・・・・」

歩美・光彦・げんた

「・・・・レシッガーパー・・・・・・」

＼

アミ

「で、どんな猫なの？」

歩美

「えつとね、アイリーンちやんつてこつてね、とつても販品なめす  
も子猫よ。ロシアンブルーつてこむこのね」だつて。」

アミ

「ちよつとまつてー依頼主、つてだれなのー?」

歩美

「えーとねえ・・・べいか女子高の校医の浅井雄一先生だよ?」

アミ

「え、『めんなさ』、なんでもないわ。」

歩美

「?」

げんた

「つかまえたぞーーー。」

歩美

「本当?じゃあわしそく浅井先生のおひこりひへすぐや」の浅井  
診療所だからーーー。」

アミ

「そーね。」

浅井

「あつがとう君達ーーあれ?一人ふえてーるね。」

アミ

「灰原アミです。哀の双子の妹。よろしく。」

コナン

「ん？ ああ 江戸川コナン。 よろしく。」

コナンはわずかだが冷や汗をたらしていた。

コナン

（なんか組織の感しかすんだよな……この辺……）

四  
ノ

「アーティストとしての才能」

浅井

「へえ。ではこれ、チケットだよ？有難う君たち。僕は仕事があるから。じゃあね」

歩美・光彦・げんた

「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」

哀

「おかれりなさい? みんな。ハハアできるわよ。はいりなさい。」

かずは  
「さむうなかつたか?」

アミ

「ちむくないわけないでしょ」

かずは

「う・・・・・・」

平次

「坊主、怪我大丈夫やつたか?」

コナン

「大丈夫だよ。」

哀

「ふうん。いろいろあつたわね。」

アミ

「夢はまだかえつてきてないの?」

哀

「ええ。」

コナン

「でも、今度あいつらがスキーいかねえかつていうんだよ。」

アミ

「いいんじやない?けど博士はしばらくかえつてこないし・・・。」

平次

「そり俺こまかしどきーーーバスでいけばええ」とやしなーーー。」

恭美

「やつたあ  
」

光彦

「おれーですーー。  
」

平次

「ん~あやつてどうえか。 ただし上藤はおひなじゅうロシビツだつ  
てゐるが」

「ナン

「へーへー。  
」

## ファイル4～猫探しの「ナンたち～（後書き）

新しく登場した人物

浅井雄一（32）

べいかじよしの校医。

シードル

?????????????????????

ファイル5～バスジャックじかん。運命から逃れられないわよ。根からの

歩美

「やつたね ついにスキーだね」

平次

「ほら雪のつぶくさ。いやととわつこや。」

歩美

「はい。」

コナン

「なんかオメカつまらなそつな顔そてんな。」

哀

「え？」

コナン

「組織にあいたくてしかたもなそつだせ?」

哀

「そんなわけないじゃない。子供たちがこるのかで。」

どりくん!-!

「コナン」(え?..)「

どりくん!-!

どくへん！！

コナン

「これに組織の!?(」

浅井

あれ、君たち

步美

浅井先生 シミテイ先生モ

ジョディ

「おう!! お久しぶりね!! 今から m're 浅井と美術館までテートです!!」

浅井

たまたまあつただけで・・・」

げんた。

「ナンせわつとフードをふかくかぶり、顔をかくそつとした。

哀

「うわ、やーしたのよ。」

げんた

「あれ？ あの人たちもうスキーウェアきてるぜ？」

平次

「やめさせてやる。」  
「やめてください。たかが子供のいたずらでしょ。」

バスジャック「うるさいなあ。うるさいふうがおー。」

一回「……」

バスジャック「都内を巡回して……」

「かひせマンガよんでね。」

哀

「どうあえず警部に電話つと。トドー。」

ばすじやつく

「死にたいか」のがきい……」

哀

「（うわ～携帯とられちゃたじやない。ていつかあそこから私の席  
はみえないし、てことは一番うしろに仲間がー？だれなんだろ？あ  
れ？）のスキーバックまさか・・・みてみよ）」

ばすじやつく

「またおめえが！？」われてえが！？」

哀

「やせ！」

浅井

「やめてください。たかが子供のいたずらでしょ。」

ばすじゅつべ

「うしづわつてん」

哀

「やつぱりだれか仲間が・・・困つてゐるんだからあなたにか智恵だしなさこよべりべ、つてえ・・・」

口ナン

「・・・（やつぱつてん。）この社内にひづてんの仲間が・・・たのむ、みつからなこでくれつ）

哀

「（あさかやつひの仲間が！？あ、でもこまはれよつぱすじゅつくを。）そつか、わかつたわ！..）じゅ、ジョナタイ先生、口紅もつてない？」

ジョナタイ

「じゅわへ。」

哀

「（みんなに指示をだしたから。）この人たちあたし達を爆弾でこらすつもつよ！..だつて顔みせてんじ、これ、ばくだんでしょう。」

ばすじゅつべ

「くわつ」

運転手

「（ストップ）」

あここここここここここここここここここ

哀

「よし、やつらはすわってなかつたせいでのびてるわね。たあガムのねえさん、覚悟！…」

おねえさん

「にげてえええあと30秒で爆発するわよおおおお…」

哀

「え…？」

みんな一揆ににげだした。

「ナン以外はにげた。

歩美

「あれ？「ナン君は…？」

光彦

「いませんね…？」

哀

「まさか、まさかあの…」

コナン

「（そう、コレが最善策…・・・どうせ組織にあつたときから逃げ場なんてなかつたんだな…・・・それにたすかっても事情聴取でい

やでもあいつと顔をあわせる「」になる……本と、ばかだよな、  
おれ……」

がっしゃん

コナン

「えー?」

どつかん!!--

がらがらがら

哀

「はあ、はあ!!--逃げてんじやないわよ!!--自分の運命から!!--  
げんじやないわよ!!--」

コナン

「灰、バラ・・・」

哀

「高木刑事、この「」だけがしてんの。事情聴取わわたしだけでうかる  
からほかの「」と「」しょに病院につれつてつて!!--はやく!!--

高木

「あ、ああ。よいつしょつと。」

高木がコナンをだきあげパトカーにのつた。

歩美

「大丈夫？ 地がいっぱいでてるよ？」

コナン

「ああ。これおれの目じゃないからさ。あこの目の目」

ジョディ

「す、じかつたですね……。」

浅井

「でも、治療がおやめ。」

哀

「あ。」

シードルは「コナンの写真にダーツの矢を差し炎をつけて武器みにわらつた。

シードル

「みーつけた……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0214ba/>

---

キャラ崩壊！！物語1～こくこく染まる黒～

2011年12月31日22時50分発行